

分科会「教育と手話の歴史」

－ろう学校の歴史を見直そう－

司会・新谷嘉浩 助言者・小中栄一

●司会 皆さん遠方よりお越し頂き、ありがとうございます。私は司会を担当する新谷といいます。よろしく申し上げます。京都から来ました。手話は下手、司会は不慣れで、脱線するかもしれませんが、笑顔で協力をお願いします。次に、アドバイザーとしての小中さんをお願いします。

●小中 私の名前は小中といいます。全日本ろうあ連盟の事務局を担当しています。今、ここ富山に住んでいます。ここから車で5分位の近い所に住んでいます。富山県聴覚障害者センターで仕事をしています。以前はろう学校に勤めていました。県内には、富山市と高岡市2つのろう学校があります。ろうあ者の立場から見て、調べてみると、面白い事や、そうではない事、いろいろな事があります。ろう学校の仕事を今は辞めて聴覚障害者センターにいます。勉強したこともないし、経験もないし、頭もないし、でも、この聾史学会では、最後の方で、感想などをまとめてお話したいと思います。よろしく申し上げます。

●司会 ありがとうございます。今から2時間一緒に勉強したいと思います。講演を一方的にするということではなくて、共に学ぶ、共に話し合っていけたらいいと思います。間違いがあってもかまいません。遠慮無く、何でも出し合ってください。

進行についてですが、2年前の広島大会、3年前の札幌大会の時に参加した方、どのくらいいますか？ろう教育の分科会に参加した方はどのくらいいますか？改めて挙手をお願いします。案外、教育の分科会は少なく、改めて、広島大会、札幌大会の分科会の流れをお話したいと思います。その後、皆さんの自己紹介と、卒業した学校、そのろう学校の歴史について知っているかどうか？その出身校にろうの先生がいたかどうか？

そういった手順を進めたいと思います。よろしく申し上げます。まずは、2年前の広島大会とその前の札幌大会の時に、ろうの先生がどんどん辞めさせられたというような話がありました。明治35年頃ろう学校で卒業した後、全国各地へ散らばっていましたが、例えば、ろう学校を新設し

たばかりで、教師が足りないといった場合に、京都から先生が呼ばれて、そこで教えるというような事がありました。

もう一つは、明治の間、東京ではなくて京都の方でろう学校が先に設立され、ろうの教師の数も増えて口話教育が広まっていきました。ろう学校は手話ではなくて口話教育中心に変わっていきました。すると、ろうの先生も要らないということになって数も減ってきました。やがて、戦争がおきます。そのため、健聴の先生の数も減ってきました。敗戦になってみんな帰ってくるとまた、ろうの先生は要らないということで減ってきました。

今、皆さん御存知の通り、特別支援教育という形でろうの教師は要らないということで、パートみたいな形でといったような話が、広島大会でありました。

去年、札幌で参加された方は見たと思いますが、先程お話したとおりのことです。戦前は、ろうの先生が日本ろうあ協会の中心メンバーでした。理事とか評議員とかほとんどろうの先生でした。また、ろう学校、盲学校、教育文道、助教諭、そういった形でろうの先生も活躍していました。

大正13年頃、全国ろうあ教育全国大会が開かれました。日本ろう教育の会、先程出ました。全国各地、持ち回りで開かれたのですが、涼しい場所、奈良が良いということで奈良が指名されました。全国のろうの教師の代表者が集まって吉野山で、それも大変、費用の掛かる話でした。

第1回全国ろう研究会が開かれました。大阪市立ろう学校の校長の高橋さんです。この写真は第1回のろうの教師のその研究会の参加者です。全員ろう者です。これは大家先生です。手話についての会議でした。本当は去年も言われたのですが、「誰がどの写真か判らないから名前を付けたらいいじゃないか」という意見があったのですけれども、抜けています。すみません。参加した先生の名前はこちらです。その時、集まって話し合ったテーマは手話、手真似を全国で一般的に統一するという事。一般化したいということでした。国語の言葉について話し合われました。手話を整理することと、一般化して統一すること。基本的なルールが無いので、なかなか統一できない。まず、ルールを決めようということにしました。

4つあります。まず、正確に。それと通じること。綺麗であること。優美であること。簡単ではっきりしていること。全国で、東京と京都関西方面が違っていたのを統一しよう。手話で大事な言葉ということにこだわるのではなく、手話が違うといったことに感情的になるのではなく、落ち着いて静かに話し合いをしましょうということでした。その結果、高橋先生は話し合いをスムーズに進めて解決して行って、皆、とても驚愕したということです。

そして、藤本先生は、日本ろう教員協会へろう教育の流れは良いといい、最高の特筆すべき歴史的会合の幕を閉じたということです。

大阪対京都の手話論争についてですけれども、兵庫県のおくろうの郷の所長をされている大矢さんに調べていて途中になっていたのですが、大矢さんから引き続き調査をするようにと私が引き継いだ課題です。

先述の第1回手話研究会の時に論争になったのですが、手話の数字の表し方がろうの子供に算数を教える時に京都と大阪で表現が違うと対立が起こったのです。京都の三島先生（手話ではあごの前に手を当てて表す）と藤本先生、福島先生、そして高平先生が手話での数字の表し方が大阪と京都で違うということです。大阪の場合は、今の手話と同じです。“1、2、3、4、5、6、7、8、9、10”皆さんが普通に使っている手話の表し方です。けれども、京都の手話の数字の表し方というのは“1、2、3、4、5”は同じですけれども“6、7、8、9”は少し違っています。それで少し論争が起こったわけです。

これについては、なかなか結論が出ず、お互い譲らずといった感じだったのですが、何故、論争が起こったかの焦点は京都の手話は遠い所から見てもはっきりわかる。見やすい。といったいい面がある。もし、手話を早く表出されても読み取ることができる。これが京都式のいいところで、読み取り間違いが無い。数字の手話としてはいいポイントだと思います。

それに対して大阪の数字の表し方というのは、ろうの子供に算数を教える時に、計算力を向上するために非常に効果があったということです。つまり、計算であるとか数字に強いろうの子供がた

くさんできたということです。その結果、“1、2、3、4、5、6、7、8、9、10”という今の手話の表し方（大阪のやり方）の方、算数に強い子供ができることが幸いであるといわれていました。

その教授法というのは、例えば、“6+7”を計算する時に“6”と“7”を左手と右手で出して親指同士を合わせるのです。そうすると、“5”と“5”が合わさって“10”になる。それであと、人差し指ともう片方の人差し指と中指で“3”ということで“13”というふうに、親指が“5”と“5”を表して合わせて“10”、他の指で“3”ということで“13”と答えが出せる。ということで優れているといわれていました。それが、大阪の方法では出来るけれども、京都の手話ではそういう風にはいけないということです。

その後、大阪市立ろう学校の高橋校長先生とか聞こえる先生が、ろうあ者の先生にバックアップをして、新しい指文字が生まれたのだらうと思います。京都の方は口話法に転換をされていて、ろうの先生に冷たく、いじめの様なことをして、手話は要らないと排除していったわけです。

しかし、やはり、ろうあ者には手話という言葉、言葉は手話しかなかった。捨てることは出来なかったわけです。止めるにも止められるわけがなかったのです。

先述の会議に参加した学校の校長先生は2人いるのですが、1人は樋口校長先生（東京ろうあ学校）ですが、ろうの先生の生きる道、生き残る道としては職業教育をするしかない。それしか方法はないとはっきりと宣言した方です。それはやはり難しい事です。それを頭に入れて好意的な意味で語ったのだらうと思います。

次に、日本ろうあ教員協会の第2回目の研究会が京都で開かれました。昭和5年のことです。参加者は21名。手話の研究であるとか、手話表現法の検討など、そういったことを討議していました。その次の第3回は開かれていないです。自然に消滅していったかなということです。最後に、戦前の盲亜大会というのは手話通訳というものはほとんど無かったということです。ろうあ者に対して、今は手話通訳というものがいるのが当たり前になってきていますけれども、戦前は手話通訳というものは無かったのです。ろうの先生が参加

しても、ほとんど分からないまま、参加だけして、ただ帰っていくという状況でした。

ろうの教員がきちんと学校に伝えて、そういったことを考えていこうというようなことは無かった。つまり、手話、口話ということが論争されていて、ろうの先生の立場として、参加できたかどうか疑問です。去年の札幌大会の時にもそういった話が出ていました。

次に2年前の広島大会、去年の札幌大会については皆さんに理解していただけたと思いますので、各々で自己紹介をしていただき、卒業したろう学校を簡単に話していただきます。もし、ろうの先生がいたかどうかや、卒業したろう学校について知っている事などを、前に出て、立ってお話していただければ幸いです。

●参加者 名前は斉木といいます。卒業したのは名古屋ろう学校です。ろうの先生は職業科の方に3人いました。裁縫の方に1人いましたし、高等部、専攻科合わせて何人かいました。

●参加者 茨城県の須川といいます。茨城県にはろう学校が2つあります。茨城県立霞ヶ浦ろう学校は幼稚部から中学部3年まで。もう1つは茨城県立水戸ろう学校です。幼稚部から専攻科まであります。私は水戸ろう学校でした。水戸ろう学校の裁縫科の先生と、美術の先生の2人のろうの先生がいたのですが、定年になってしまいました。今はいないのですが、霞ヶ浦の方にはろうの先生がいると聞いています。今の話で思い出したのは、ろう学校が無くなるという話を聞き、びっくりしました。どうしてろう学校が無くなるのかというと、特別支援教育、特別支援学校になるのです。どうして変わるのか知りたいと思っています。

●参加者 長野県から来ました。大塚といいます。長野県にはろう学校が2つあります。1つは長野ろう学校、もう1つは小岩井先生が創立された松本ろう学校です。長野ろう学校は103年前に建てられた古い学校です。開校以来、手話で教育を続けてきて、昭和3年頃、国際会議があって、口話教育をするようにと言われました。他の学校と同様に手話での教育を止めて、口話教育に変えました。その時は松本ろう学校が建ちました。長野ろう学校と松本ろう学校とは20年の差があるわけですが、やっと100年目にしてろうの先生が1人

採用されました。その間ろうの先生がいなかったのはどうしてかわからないです。今、松本ろう学校の方ではろうの先生が2人いると聞いています。その後、昭和24年頃、県の考え方として、口話教育をしようということで長野ろう学校に口話教育を推進しろといわれて長野ろう学校から松本ろう学校へろうの先生が転任して格が下がってしまったという話も聞いています。定年になった後、自然に辞めて、しばらくろうの先生がいなかったのですが、5年前に久しぶりに採用されて、現在、長野県のろう学校には1人ずつのろうの先生がいると聞いています。

来年度からは特別支援学校に変わるかどうかを今討議しているところです。学校が無くなるかと心配しています。皆さんも少しずつ考えていただければありがたいと思います。

●参加者 横浜から来ました。名前を楨原といいます。生まれた場所は長崎なので、大村と佐世保にあったのですが、それぞれ2カ所、佐世保の方は無いようですが、大村校の方は4人いるという話を聞きました。木工と裁縫だけ、他は無いです。最終学歴は筑波です。簡単ですが終わります。

●参加者 栃木から来ました。生まれは栃木ではなく、宮城です。小学校の6年までろう学校でした。宮城で生活していました。宮城には県立宮城ろう学校と、もう1つ小牛田という、ちょっと変わった名前ですが、2つのろう学校があります。

県北部の方は中3まで、宮城は通っていましたが、高校1年の時に寄宿舎に入りました。宮城県立ろう学校に行った後、今は栃木で27年生活しています。今、視力が段々落ちてきているので、皆さんに助けていただきながら、学校の歴史についてお話ししたいと思うのですけれども、明治42年設立された後、来年以降の準備で慌しいのですが、戦前1人仕事していましたが、細かい内容ははっきりとは分かりません。荒井先生という人がいました。詳しいことは分かりませんが、もう1人、戦後、裁縫科の先生で、今、ろう学校の寄宿舎に合わせて5人の先生がいましたけれども、残念ですが寄宿舎が詳しいことは分かりませんが、そういった珍しい経緯があります。昭和29年、矢板に学校が設立されました。そこで生活していたのですが、昭和34年閉鎖されました。

詳しい経緯はまだよく調べていません。以上です。

●参加者 石黒といいます。栃木県のろう学校を卒業しました。学生の時は、寄宿舎に2人、1人いました。今はいません。卒業した後入ってきたようです。私の祖父は、戦前、ろう学校の先生をやっていました。その当時の話もいろいろ聞いたのですが、そんなことがあったのかと感心したことがありました。

●参加者 高田といいます。大阪の生野ろう学校を卒業しました。高等部までです。

●参加者 高校まで神戸ろう学校の出身です。高等部と縫製科和裁がありました。高校の時、父が亡くなりました。残念ですが裁縫の専門の方へ変わり、仕事につきました。会社の都合で辞めることになり、今は家にいます。一生懸命やった結果を来年楽しみにしています。

●参加者 出身校は筑波に転校しました。秋田からろう学校にろうの先生はたくさんいて1人は残念ですが、亡くなって、その時、社会を教わりました。今は、ろうの先生はいないという話です。私が卒業した後、何年かして、34人ぐらい卒業したかと思いますが、1人ろうの先生が入ったという話しですが、小・中・高の時は、ろうの先生は何人もいました。今は辞めて減ったそうです。たまたま同級生がいて、簡単ですが、終わります。

●参加者 富山県が出身で城方といいます。富山県にはろう学校は2つあり、その内の富山ろう学校に通っていました。私が在学当時は手話の出来る先生、出来ない先生というのがいましたけれども、手話の出来ない先生には、困りますので、自分達で一生懸命、手話の出来る先生に訊いたりしたことを覚えています。

●参加者 私の名前は得能英一といいます。小中さんと同じ名前です。出身の富山県には、富山県立富山ろう学校と高岡ろう学校の2校あります。昭和29年に高岡ろう学校の方は設立されました。富山ろう学校の方は昭和5年頃だったと思います。高岡ろう学校は昭和29年に設立されました。私は幼稚部へは通ってなくて、小学部1年から中学部3年まで通っていました。高等部からは石川ろう学校で学んでいましたので、3年まで技術ですとか、いろいろなことを教わりました。今、そのろう学校は無くなっています。石川ろう

学校は来年、開校100周年になります。また、いろいろ教えていただきたいと思います。

●参加者 島根県の方から来ました。藤田といいます。本当は、京都ろう学校を卒業したのですが、京都の方では私が学んでいた当時は分校でした。分かれていましたので、京都の先輩と久しぶりに会うのは、修学旅行です。遠足で運動会などの行事は別に行っていました。とても珍しいですね。

手話については私の学校の方は口話教育が厳しくて、手話を使っている学校となかなか通じなかったです。口話で話しても京都ろう学校の本校の方はわからない。いろいろ教えてもらって、高校2年になってから初めて手話を学び始めました。その後は5年先輩の健聴者の学校から転校してきた方からいろいろ他のろうの先生、1人2人いたと思います、辞めていってろうの先生は要らないと排除されて次々に辞めていって先生は減っていったのです。その後、卒業して、結婚して仕事のため、島根県に引っ越しました。

島根は、以前、松江にろう学校が1つ、その後、島根県は地形的に細長いです。私の住んでいるところから松江までは4時間かかります。朝早く出て、夜も暗くなりますし、もう1つろう学校を建設してほしいと、松江の方と、もう1つ浜田のほうにろう学校を建てて2校になりました。松江ろう学校の方は、ろうの先生は1人、長く勤めている先生が1人いると聞いたことがあります。裁縫の方に1人いて、その後、呼ばれて2人になって、その後1人、浜田ろう学校の方に1人転任して、1人ずついたと思います。

その後、松江ろう学校のろうの先生は退職して、役員の関係で、ろうあ者とのいろいろな事が疲れたということで、今応援してもらう事ができなくて困っています。ろうの先生は、普通の仕事から学校のほうに来て、長くいて、今は、中部のろうあ協会の役員をしています。また、浜田ろう学校の方は、ずっとろうの先生はいなかったのですが、1人きて、資格を持っていないということで、補助教員のような形で、今はろう学校の方にいます。資格を持っている先生は2人、浜田ろう学校の方にはいます。手話については、少し前までは皆さんと同じです。挨拶ぐらいは出来るようになっていきます。私がいたときには手話は禁止されていま

したけれども、もし、手話を使っても良かったらとても嬉しかったと思います。その当時は禁止されていたので、仕方がないですね。

●参加者 滋賀県の辻といいます。私が住んでいる滋賀県のろう学校は、皆さん2つあると思っ

ていると思いますが、本当は1つです。手話を使っていない、初めから口話教育をずっとやっていた学校です。有名な学校です。昭和3年頃から始まった学校ですが、来年は80周年を迎える学校です。ろうの先生についてですが、私がろう学校にいた時は6人のろうの先生がいたのですが、6人の内5人は普通科の先生ではなくて、職業科の方にいました。1人は寄宿舎の方にいました。その後8人に増えたのですが、その後、高齢化が進んで、定年を迎えて辞めて、少しずつ減っていき、今は4人いるときいています。その4人とも若いので、しばらくたつてから3人になったりすることもあるかもしれません。今後、新しい先生が採用されて入ってくるかは分かりません。以上です。

●参加者 愛知県から来ました。中学部までは岡崎ろう学校にいました。4年前に創立100年を迎えました。今、ろうの教職員は4人います。ろうの教員、職員は2人ずつです。ろう教員は3年前、71年ぶりに採用されました。

●参加者 京都の西岡といいます。京都ろう学校は2つあります。舞鶴分校と本校です。古河先生知っていますか？ 明治11年頃に建てられた、残っているところ是非、そういった史跡を見に来て下さい。もう1人、大田先生亡くなったとは聞いていません。元気だと思います。今、ろうの若い先生が2人いるそうです。舞鶴分校の方にはいないそうです。

●参加者 富山県の北崎といいます。幼稚部から富山ろう学校に通って卒業しました。小学5年まで通っていましたが、小学6年から石川ろう学校の方に通って、それから専攻科は筑波技術短期大学に通って、卒業しました。石川ろう学校は、僕がいたときは、ろうの先生は理容科の先生、あと木工科の先生、2人ろうの先生がいました。筑波の方は、何人もいたのではっきり覚えていませんが、印刷科とかろうの先生に来て教えてもらったこともありました。以上です。

●参加者 滋賀県の熊田といいます。生まれは山口県、昭和49年生まれです。昭和50年ぐらいの思い出をお話します。ろう学校に行ったのは、幼稚部だけで、その後は、普通の学校に通っていました。昔、ろう学校の先生にろうの先生がいたかどうか言われても困りますが、小さい時の事を思い出すと、いなかったと思います。小学校5年の時に、ろう学校の先生から誘われて、久しぶりにろう学校へ行き、指導を受けたことがあります。

私と同じ卒業生久しぶりに会ったみんなは、手話を使わずに口話で話をしていました。それを覚えていて、中学校に入ってから、ろう学校の先生から、始めは分からなかったのですが、手話を少し使っていました。私はまだ、手話は分からなかった、「手話分からない」と言ったら、口話でゆっくり話をしてくれるようになりました。ただ、その時から、手話教育が始まったのかもし

れません。以上です。
●参加者 新潟県にはろう学校は2つあります。新潟ろう学校と長岡ろう学校です。長岡ろう学校で教わった時1人だけ2人かな、ろうの先生がいたと思います。木工科の先生と、中学の時、臨時で来た先生、あとはあまり覚えていません。裁縫科の先生、東京に引っ越してからは、教わったことが無いので分かりません。

●参加者 広島県の山崎といいます。広島にはろう学校は3つあります。広島ろう学校と、尾道ろう学校と、私の出身校、呉ろう学校です。呉ろう学校の歴史は浅いのですが、終戦後の昭和25年頃建てられた学校で、まだ歴史は浅いです。中学1年に入った時に1人来ました。今の広島の連盟の理事長です。

●参加者 京都からきました。宍道（しんじ）と言います。今は京都にいますが、生まれは島根県です。先に紹介された藤田さん、久しぶりにお会いしてうれしいです。有名だから知っている人いるかもしれませんが、宍道湖島根生まれなので、島根のろう学校を卒業しました。100周年記念の時に帰ったら、みんなと久しぶりに会えてうれしかったです。明治に設立されたので古い学校だと聞きました。その学校誌をもらって読んでみると、明治から大正の間、ろう学校にきて教えた事が載っていました。ろうの先生がいた。木工の先

生と、でも正規の先生ではなく、木工を指導するために呼ばれたそうです。

ろう学校はみんな、ろうの先生がいると思うのですが、目的は、皆さんと同じ、むかしろう学校のなかで「手話はダメ」と言われてきました。ずっと口話を教わってきました。もちろん、先生は手話を教えてはくれませんでした。ろう学校で育ったあいだは、ほかの県の人達との交流もなかったわけですが、その学校に通っていた十数年の間、先輩達と手話で話していただけ。

で、京都へ行ってみたら、他の学校と違うんですね。みんなコミュニケーションはスムーズにできる。手話を通じる。そういう訳で京都に移った。長くなりました。すみません。

●参加者 生まれは兵庫県生まれです。神戸ろう学校と、ろう学校4つあります。私は幼稚部から高校2年まで通っていました。大学、高校に入って3年通って卒業して、専攻科で教わりました。短いですが、終わります。

●参加者 中井と言います。富山ろう学校の出身です。専攻科まで通っていました。ろう学校に通っていた当時は担任の先生がいました。

●参加者 地元にあります、名前は塚原、手話では「塚原」と表わします。手話はいろいろだと思いますが、簡単に「塚原」。私は富山ろう学校に幼稚部のときからずっと専攻科まで16年間かよっていました。今、ライトレール、新しい市電ができたのですが、前は電車でした。ちょっと思い出をお話したいと思います。普通では考えられないような事です。普通は中学部を卒業して、高等部を卒業して、専攻科を卒業して、その時先生が代わりますよね。僕はずうっと西田先生、高等部も西田先生、専攻科に行ってもおなじ先生…。僕のクラスは4人、男ばかり。前、幼稚部から小学部まで、手話は禁止されていました。「手まねをした人はばってんを付けてはります」と言うふうに言われて、手話をやっていると「あ、バツだ!」と言って、バケツを持って立たされたり、と言うことがありました。非常に厳しかったです。中等部に入るともう手話を自由に使えるようになりました。そのあと、まあへんな先生ばかりいたんですけど、なんだったつけ、いろんなへんな先生がいて思い出があります。小中先生は、富山

ろう学校へ来たのは、専攻科にいた時です。そのもっと前、中等部1、2年の時に、中等部から専攻科までみんなならんでいて、誰か来て、その当時小中先生は手話はしなかったんです。僕、解らなかったんです。口話だけで話されて、僕解らなかった。その後、高岡ろう学校に入られました。その時に僕は教わったことはなくて、担任にはならなくてちょっとほっとしました。今は、小中先生がいた時、もう1人先生がいましたが辞めて、今はひとりだけ。あと、職員として1人、2人います。

●参加者 愛知県の青山と言います。出身校は、愛知県立豊橋ろう学校。明治33年に設立されました。私がろう学校在学中は、ろうの先生はいませんでした。助手か何かいたように思います。

●参加者 土川と言います。出身地は沖縄です。ろう学校を卒業しました。12年間かよった後です。引っ越してきて北城ろう学校に通いました。

今は廃校になって、名前が変わって沖縄ろう学校になりました。もともとあった学校は普通の学校に変わりました。ですから、思い出と違うのはないのですが、なんにもないんですね。聞こえる方だけがただ集まっていると言う感じです。沖縄の方では戦争の、上陸があつていろいろと質問されますけど、終わった後11年後に私は生まれているので、戦争の体験を知らないのです。残念ですけど。

●参加者 兵庫県から来ました。山田と言います。学校は、新しい、本当は神戸のろう学校があるのですが、遠いということで1年間はふらふらとしていたのですが、近くにろう学校の子供がいて「近くにろう学校があるんだ」ということで6月から入って、家から近い所で通えるので、ほっとしています。バスとか電車とかおばあさんをお願いをして一緒に生活が大変になってしまうと高等部まで。先生は知っている範囲では女性の方が2人おられるかと思う。和裁の方に。それと男の先生は、忘れましたが3人位いたと思う。それで私は口話教育を受けました。聞こえる先生がこれをして、休みの時は聞こえない先生が来てほっとしたのを覚えています。「勉強を休んで下さい」みんなうれしくて、ろうの先生が来るとみんな喜んでいました。「言ったらだめだぞ」といわれて、そ

ういうことは覚えています。やはり口話だけで言われても、ただ黙認しているだけのように感じてしまいますよね。たいせん高等部、高等ろう学校というのがつぶれてから、古墳、前方後円墳、たいせいに、今6人くらいいる。取り組みをしている。校長先生は手話ができる先生で、ろうあの先生が増えるようにとがんばってくれています。僕が知っているのは、同窓会の役員会で一緒に2回か3回行っているのですが、先生も手話はうまくてみんな安心して話をしています。私の同級生で、たいせい高等学校の先生で、お城がすぎなんです。以前7月に造られ公開されたばかりの彦根城、3月から400人ぐらいが行列をつくって、歴史が好きな人は申し込んで下さい。本、2625円の本を、2000円でお渡しできるので。いつだったか、80周年記念のパーティーがあって私も参加しました。

●参加者 兵庫県のふじしろと言います。よろしくお願ひします。日本聾史学会に参加は初めてなのですが、それまでの間は、全国手話通訳問題研究会集会にずっと参加していました。この聾史学会に初めて参加したのですが、とても良かったと思います。名前はふじしろです。兵庫県から来ました。3つお話ししたいことがあるのですが、1つめは神戸、それから大阪市、千葉、3つ転校しました。仕事の都合もあってですけど。神戸ろう学校の方は、小学部6年生を卒業して、中学1年の途中で、大阪市の方に転校しました。そこでびっくりしたのは、みなさんご存知の大家先生です。ろう者の先生がいるということを私は知らなかったの、聞こえる方だと思っていたのですが、国語の授業を一生懸命手話を使いながら、本を片手に持って手話をするのですが、私は全然解らなかつたです。本を見ながら指文字なんか、それで「解つた人は？」と言われて、みんな「はい」と手を上げるのですが、私だけわからなくて手を上げられなかつたのです。先生に聞かれて「すみません、私、指文字苦手です全然わからないです。」と言うと、「入つたばかりですか?」「そうです」「ではあらためて、家に帰って訓練してきなさい」と言われて、家に帰って一生懸命「あ、い、う、え、お…」とくりかえしやって、やっと学校でも、「大丈夫?」と言われてもなかなか「できます!」と

断言できなくてドキドキしていましたが、そういった経験があります。やっぱり「遅くても良いですか?」と言って本を見ながら一生懸命指文字をやって「よかつたよかつた」と言われました。大阪市立のろう学校の先生は5人です。北野先生、皆さんご存知ですか? 北野先生、美術の先生ですけども、それと、白石先生。理科の先生でした。それから、笠原先生、木工を担当していました。大矢先生は国語ですね。もうひとりはお忘れかもしれませんが5人の先生がいました。実はとてもびっくりしました。それまではそういった事は全然知らなかつたのですが、転校してから、その学校は生徒の数が多かつた。昭和38年頃だったか、ろうあの学生の数が400人ぐらい、今は28人。とても減つてしまつて28人になっているのですが、400人から28人と言うとすごく減つて、どうしてかなと思う。子供が少ないというだけでなく、普通の学校に転校してインテグレーションということもあって、ろう学校の生徒の数が減つていると言う事ですね。又、とても深刻な問題ですけど、ろう学校という名前が聴覚特別支援学校というふうになつて名前が変わつていまして。神戸、姫路など3つあるのですが、「ろう」と言う名前は全部なくなつて「聴覚特別支援学校」となつていまして。私はちょっと抵抗があるのですが。10月に発表したのですが、「こぼと」はわからないのですが、兵庫には全部で5つあります。以上です。

●参加者 私の出身は、新潟県。新潟ろう学校を卒業しました。ろう学校の先生は、長谷川先生、みなさんご存知ですか? 高等部3年生の時、長谷川先生が入つてこられて、手話を使わなかつたのですが、まったく内容は分からないまま卒業したのですが、そのあと久しぶりにお会いしたら、手話をもつて資格ももつていてとてもびっくりしました。

新潟県のろう学校と言うのは、手話を禁止している学校が多いですね。口話主義ですね。林校長先生が「手話はだめだ。口話を使いなさい」といわれ、読話を間違えたりしたら、「たまご」とか「なまこ」とか「たばこ」とか、読み取りの訓練をしていました。かくれて手話を使つたりしていましたが、中学部の3年生ぐらいから、長岡ろう学校にかわり、長岡ろう学校では手話を使つているの

ですね。私はそれまで手話は知らなかったので、指文字を教えてもらって習得して、それまでは手話を使っていなかったのですが、「あ、い、う、え、お」などを、自分自身はじめて知って、少しずつ身につけていった。「手話はだめだ」というのがまだ少し残っていて、かくれて手話を使っている事もあります。口話にこだわって、休み時間に少しずつ手話を学んでいった感じでした。長岡ろう学校の方は良いとか、新潟ろう学校はだめだとかいったこともあるのかなと思うのですが。それくらいで終わります。

●司会 みなさん一人一人前に来てお話していただきましたが、それぞれろう学校を卒業した思い出とか、学生の時の先生のお話し、どんな先生がいたかなど、いろいろお話して頂き、面白かったです。今お話しいただいた内容について、このあとまた話し合っていきます。

自己紹介でだいぶ時間とってしまいましたが、残りあと15分だけになってしまいました。先ほど誰かがお話していましたが、手話は全国各地で違いましたね。何でだと思いますか？前お話ししました、ろうの先生同士の連絡、ネットワークが抜けています。明治に京都でろう学校が設立された年、ろうの先生いました。ろう学校卒業した後、全国各地に広まっていった、とお話ししましたが、明治の間は京都が中心になっていましたが、山口、京都を卒業した後、教えて広めるために、かなと思います。

それが、手話が地域によって違うと言うことに。自己紹介してもらいました。出身校も話してもらいましたが、なるほど、面白かったです。通じるのは何かと言うと、小中さんから話したいと思います。

●小中 お疲れさまでした。みなさんに自己紹介をしていただきましたが、その内容は色々でしたね。「面白い」「すごいな」「なるほど」、いろんなお話しができました。また、共通する面も合わなかった事も、いろいろお話ししたいと思います。ひとつは、みなさんろう学校について、自分の母校、自分の歴史を話したいとか、言う様子があったと思います。健聴の学校のことをお話しする、ろう者はろう学校の事を話す、その違いはありますが、自分のルーツとかをお話ししてもらっ

た感じがあります。大事なのは歴史かなと思います。もうひとつは、昔は手話を使えない、口話教育が厳しかったというお話がありました。みなさんの発表姿勢をみると、昔のろう学校の発表会、失礼かもしれませんが、個人個人で会っておしゃべりする、そういった姿勢と、前に出て話されるのと、ちょっと違うかな。前に出るとちょっとかたくなって口もはっきりはっきりと、大きく開いて、補聴器を付けているので声もちょっと聞こえるのですが、声を出している方もおられましたね。なんだからろう学校の時の、「手話はだめ、口話で発表しなければいけない」ろう学校の時の名残かなと思われました。前に出てきて話さなくちゃ、と思うとやっぱりちょっと変わっちゃいますね。ですから、ろう学校、昔ろうの先生がいたかどうか、ということも発表されましたが、やっぱり職業科の先生が多い。もうひとつ思ったのは、「だれです」「この人です」「この人です」と言う話がありました。思い出みたいな話がいくつかありました。ひとつは大矢先生。国語の授業で、指文字でテキスト片手に指文字で話された、厳しい指導だったみたいな話がありましたよね。もうひとつは、「ろうの先生が来てほっとした」「手話でお話しできた」「内緒だよ、とって手話でお話しできた」「会うとほっとすることができた」と言うお話がありました。もう一つぐらいあったと思うけど、ほかになかった？ 思い出話、感想と言うか、口話が厳しかった、だからあんまりろうの先生に教わるのが少なかったのではないですか？ あんまり出てこなかった。

もうひとつは職業科の先生だから、それ以外教わる機会が少なかったのではないか？ かもしれませんが、昔学校にいた時に聞こえない先生がいて、聞こえない先生、良い先生だったか良くない先生だったか、という思い出、たくさんあるか、あんまりないのか、言ったような話の中で、ろうの先生は昔、学校の中でつらかったこと、苦しんでいた事、かわって、聞こえない自分に誇りを持って勉強する、ということが広まってきました。ろうの先生の採用も広まっています。新しい先生は昔のろう学校の先生の苦しみを知らないですよね。若い先生は昔のろう学校、口話教育が厳しかった、ろうの先生も下働きみたいだった、そういった苦

労をしていた、そういったことを調べて教えてあげる、と言ったような、これからみなさん自己紹介して頂いておもしろかった、良かったです。それをもっともっと話し合い、出し合っていくことが大事かなと思います。

これから特別支援学校に変わります。基本的にろう学校は、すぐころっと変わるのではないと思います。ただ、以前からすこしずつ変わってきている。何でかという、まず人事異動があります。前はろう学校には長くいる先生が多かったです。それが当たり前でした。ですから誰かが言われたように、中等部修了し、高等部卒業しても、ずっと担任の先生が同じだったと言うような事があるかもしれません。人事異動はありました。6、7年でベテランになる。10年を超える人も少しいて、新しい経験の短い先生がいる。そういう状況は前からあります。が、変わってきています。今、特別支援教育制度に変わりつつあります。ひとつは、名前も変わる。もうひとつは、ほかの知的障害とか盲学校から、また肢体障害、養護学校、「重複していてもかまわない」と言うように規則がかわります。ですから色々な場所、学校の子供の数が減ってきている。空いた教室がある。かわりに養護学校はいっぱいになっている。部屋が足りない、学校の教室が足りません。新しく作る訳にもいかない。ろう学校に空き教室があるのでちょうど良い。そこを使おうと言って移っていく。そういった考え方があるわけです。ですから、知的障害の子供、実は富山もあります。富山も2年後、合わさります。高等部だけの予定ですけども、今富山ろう学校は45人くらいいます。だんだん減ってきていて45人。高岡は14人だけ？もうがらがらの状態です。2年後、高等部1年知的障害の子供、例えば8人、合わせて24人の子供が同じか、ろうの方が上か変わります。と言った状況で、実際に心配もあります。ろう学校が減ってきている中で聞こえという歴史も非常に大事です。大きな力になると思います。突然変わるのではなく、前から徐々に変わってきています。でもこれから状況をじっくり見て、ろうの歴史ろう学校の歴史の中で、みなさんの受けた昔の苦しさ、口話を強要された苦しさ先輩後輩、また先生、良い先生良くない先生、口話ばっかりの先生、手話を使ってい

た先生、今は人事異動もされています。そういった関係で前の歴史を新しい先生にも、情報をあたえてあげる、自覚を持ってもらうと言った力になってほしいと思います。

このあとのこと？予定？ああ、なるほどね。手話が違うのですね。通じる面、同じ所もありますね。司会の方が言われたように、西日本、東日本とで違いがあります。そう言った研究も必要かと思えます。卒業した後。もうひとつは、手話の本がだされて手話が広まっています。3番目には、失礼ですが口話では通じる面多いかもわからないですが、昔みなさんろう学校でずっと学んだことを忘れないでいるのが、はっきりわかりました。そんなテーマの研究も大事かと思えます。

●司会 ありがとうございます。今お話しされたように、特別支援学校に変わる、名称が変わりますね。ぼくのいる京都は、3年間ろう学校の名称はそのままです。4年後変わるかも解らない、と言う話をきいています。ろう学校はなくなるかもしれない。ろう協は一生懸命反対運動をしています。それには同窓会の力も必要です。ろうあ協会と同窓会と。また先生の立場。先生の方はろう学校同士の協力しあう力が強いです。ろう学校の名称をそのまま残すかどうか。同窓会は昔からの経過、設立したのは誰か、ろうの先生を中心に設立されたものが多いです。それは、卒業生同士の交流のためにありました。同窓会に集まれば、ろう学校の名称をそのままにつなげる力になるかもしれません。

その話は置いておいて、この辺で終わりたいと思います。本当は、みなさん30数名あつまりました。今まで20人とか10人とか少なかったのですが、今回は人数が30人超えてびっくりしました。一人一人ろう学校、卒業した学校、なつかしかったことなどいろいろお話しして頂きました。生い立ちなど…。

来年は開催地は兵庫ですね。またそこで集まって、もっともっとお話ししてほしいと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございます。